

c005002	[一湊区]一湊湾(矢筈岬・屋久島電工施設・西郷隆盛上陸碑)	概要 適用
 <p data-bbox="224 742 448 774">c005002001) 矢筈岬</p> <div data-bbox="246 837 481 997">  <p data-bbox="246 997 380 1021">c005002002</p> <p data-bbox="246 1029 336 1061">矢筈岬</p> </div> <div data-bbox="515 837 750 997">  <p data-bbox="515 997 649 1021">c005002003</p> <p data-bbox="515 1029 604 1061">矢筈岬</p> </div> <div data-bbox="795 837 1030 997">  <p data-bbox="795 997 929 1021">c005002004</p> <p data-bbox="795 1029 952 1061">屋久電工施設</p> </div> <div data-bbox="246 1093 481 1252">  <p data-bbox="246 1276 380 1300">c005002005</p> <p data-bbox="246 1316 403 1348">屋久電工施設</p> </div> <div data-bbox="515 1093 750 1252">  <p data-bbox="515 1276 649 1300">c005002006</p> <p data-bbox="515 1316 672 1348">屋久電工施設</p> </div> <div data-bbox="795 1093 1030 1252">  <p data-bbox="795 1276 929 1300">c005002007</p> <p data-bbox="795 1316 952 1348">屋久電工施設</p> </div>		<p data-bbox="1142 215 1243 239">□矢筈岬</p> <ul data-bbox="1142 263 1948 391" style="list-style-type: none"> ・矢筈は、踏み台を使わずに掛軸を掛けるための棒状の道具で、掛け棹(掛物棹、掛棹)が本来の名称である。 ・矢筈岬は矢筈岳の山容がこの矢筈から来ていることによる。 <p data-bbox="1142 454 1344 478">□屋久島電工施設</p> <ul data-bbox="1142 502 1948 1300" style="list-style-type: none"> ・(屋久島電工の)工場が宮之浦に建設されたのは、一湊港に近く、70ha の敷地が得られたから。 ・一湊は宮之浦、安房などの河口港と違って、しゅんせつの必要が無く、水深は6～18m ある。 ・矢筈岬が 900m も海に突出しているため、風の強い日でも岬のどちらか一方は接岸できるのが有利。 ・しかし、一港には必要な敷地が無かったため、宮之浦に(屋久島電工の)工場が建設されることになった。 ・一湊は矢筈岬が防波堤の役割を果たしている天然の良港であった。 ・原料、製品の荷役のために築港工事により 2000 トン船舶着岸可能な栈橋が完成。 ・昭和 34 年7月着工、35 年竣工、工費約 2 億円。 ・栈橋(高さ 8m、幅 6m、長さ 150m)。 ・クレーンで荷揚げされた原料はベルトコンベアで倉庫に収納し、製品はトラックで栈橋突端へ送り、クレーンで船積みできるようになった。 ・冬季の季節風の影響を避けるため、矢筈岬の反対側の元浦港新築工事も行われ、500 トン級船舶が接岸可能となった。 <p data-bbox="1142 1364 1344 1388">□西郷隆盛上陸碑</p>



c005002008
古写真



c005002011
上陸碑裏



c005002009
上陸碑



c005002012
宇留満乃日記



c005002010
上陸碑



c005002013
宇留満乃日記

- ・文久二年(1862)2 回目の島流し(徳之島→沖永良部島)になり、村田新八と別々の船で6月18日～26日まで滞在。
- ・元治元年(1864)赦免され、薩摩藩の密貿易の取り締まり役を委任される。
- ・後の西南戦争五番隊長、池上四郎を屋久島へ派遣。
- ・一湊東側入口の三叉路に黒色石組みの記念碑がある。
- ・石は桜島の溶岩と屋久島の雑石を合わせたもの。
- ・桜島の溶岩は、一湊漁港の埋め立てに使用した残石と思われる。
- ・溶岩の大きな面に「西郷隆盛上陸の碑」と記してある。
- ・島津久光を待たず京都・大阪へ登ったことで久光から奄美大島への遠島を言い渡された。
- ・山川港から西郷は徳之島へ、村田新八は喜界島へ別々の船で向った。
- ・この航海の様子が、村田新八の「宇留満乃日記」に描かれている。
- ・悪天候により西郷、村田の乗る船は口永良部へは入港できず、相前後して一湊へ入港する。
- ・天候不良のため、西郷・村田は一湊に26日間滞在した。

【文献・資料】

- ・上屋久島郷土誌
- ・一湊百年
- ・一湊街歩き資料
- ・ウイキペディア

【写真】

- c005010001) 番屋峰から矢筈岬・一湊湾を望む
- c005010002) 番屋峰から矢筈岬・一湊湾を望む
- c005010003) 番屋峰から矢筈岬・一湊湾を望む

c005010004)_ 屋久島電工施設
c005010005)_ 屋久島電工施設右から
c005010006)_ 屋久島電工施設左から
c005010007)_ 屋久島電工施設遠景
c005010008)_ 屋久島電工施設古写真
c005010009)_ 西郷隆盛上陸碑
c005010010)_ 西郷隆盛上陸碑
c005010011)_ 西郷隆盛上陸碑裏面
c005010012)_ 宇留満乃日記
c005010013)_ 宇留満乃日記